

ドル/円相場のトレード戦略

■ 中長期展望

昨年末のトランプ・ラリーによるドルの急上昇に対する調整が本年初から続き、2月第2週には111円台半ばまで下押しする動きとなりました。

【ドル/円 週足】



これは、年初からトランプ大統領が米国の貿易赤字に懸念を表明し、赤字の多くを占める中国や日本に対し批判を強め、ドル高をけん制する発言をしたことが背景にあります。

トランプ大統領は、彼の支持者の期待にこたえなければならず、そのためには米製造業の雇用を増やす必要があります。米製造業の雇用を増加させるためには、輸出の拡大が必要であり、それにはドル安が有効であるということです。

しかし、トランプ大統領が行おうとしている経済政策は、減税、規制緩和、インフラ投資の拡充という財政政策であり、これは米国の経済成長をもたらすとともに、FRBの利上げ継続を正当化することとなりますが、同時にドル高をもたらすものです。

過激な発言を繰り返す大統領がこの矛盾にどう取り組むのかという点に関し、市場の不透明感が高まり、疑心暗鬼が外国為替市場においてポジション調整を引き起こしていたといえますが、日米首脳会談の結果、日米のより強固な協調関係が確認されたことにより、政治的な圧力が加わる可能性が後退したことは重要といえます。

ドル/円相場のトレード戦略

3月に入り、米FRB高官から早期の利上げを予想させる発言が相次いでおり、市場の期待感が高まっています。

現状では、115円水準が強い上値抵抗となっていますが、この水準を上抜けた場合は117円～118円をターゲットにドル高が進むものと予想されます。

米国の経済政策や金融政策の行方が焦点となる相場が今後も続くものと思われそうですが、トランプ大統領が市場の期待に応えた政策実施を行えるのかどうか注目が集まるでしょう。

■ 短期展望

先週は、トランプ大統領就任後初の両院議会演説を無難に乗り切り、米FRB高官による早期利上げ発言もあってドルは堅調に推移し、週初の111円台から週末には114円台後半まで上昇する動きとなりました。

市場は米国の3月利上げを織り込みつつあり、今週末の米雇用統計がよほど下振れない限り、実際に14～15日のFOMCで利上げが行われるものと予想されます。

今週は、米利上げ期待を背景のドルが底堅い動きを継続するものと思われそうですが、2月の戻り高値114円96銭や心理的節目である115円ちょうどを上抜けるかどうかポイントとなりそうです。

115円水準を上抜けることが出来れば117円～118円までが視野に入ってきます。

逆に上抜けに失敗した場合は、これまでの111円半ばから115円でのレンジ相場が継続することになりそうです。